

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	清須市次世代育成支援対策行動計画策定委員会
開 催 日 時	平成22年10月29日（金）午前10時00分
開 催 場 所	清須市役所 本庁舎 3階 大会議室
議 題	1 開会 2 あいさつ 3 委嘱状伝達 4 委員紹介 5 清須市次世代育成支援対策行動計画策定委員会設置要綱について 6 副委員長の指名について 7 議事 (1) 平成22年度主な取り組み状況について (2) 幼稚園保育所の整備の考え方について 8 閉会
会 議 資 料	資料1 清須市次世代育成支援行動計画策定委員会名簿 資料2 清須市次世代育成支援行動計画策定委員会設置要綱 資料3 平成22年度主な取り組み状況 資料4 幼稚園保育所の整備の考え方（案）
公 開 ・ 非 公 開 の 別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （ 公 開 し た 場 合 ）	なし
出 席 委 員	小川委員、村瀬委員、日下部委員、丹羽委員、藤岡委員、河合委員、伊藤委員、堀田委員、建部委員、谷委員、原田委員、中田委員、内田委員、松永委員
欠 席 委 員	西村委員、塚本委員、堀田委員
出 席 者	(市) 加藤市長、大鐘健康福祉部長、内藤健康福祉部参事、櫻井教育部次長兼学校教育課長
事 務 局	林課長、杉村保育長、加藤課長補佐、早川係長

会 議 の 経 過

事 務 局

皆様おはようございます。私は、本日の司会を務めさせてさせていただきます健康福祉部子育て支援課、課長の林です。よろしくお願ひします。

開会に先立ちまして、本日の委員の出席状況について、ご報告させていただきます。本日は、西村委員、塚本委員、堀田委員3名の欠席です。

本委員会は、次世代育成支援対策行動計画策定委員会設置要綱第6条第2項の規定により、本日は委員の過半数以上の方のご出席をいただいておりますので、会議は成立していることをご報告いたします。

なお、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱では、附属機関等の会議及び会議録は、清須市情報公開条例の規定に基づき非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することとなっています。非公開としている情報は、個人情報などですが、本日の会議では非公開とされる事項を審議する予定はございません。

従いまして、本委員会及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしくお願ひします。

定刻になりましたので、ただ今より次世代育成支援対策行動計画策定委員会を開会いたします。

開会にあたりまして、加藤市長からご挨拶申し上げます。

加藤市長

あらためましておはようございます。つい最近まで猛暑でありましたが、うって変わって、今朝あたり寒い感じがするところがございます。この土曜日、日曜日には文化展があります。昨年まで地区ごとでやっていましたが、今回は一緒に行われます。どうも季節はずれの台風がやってきており、少し進路を変えたようですが、何とか文化展をやれるようにしたいと思っていますところです。そんな中がございますが、今日は次世代育成支援対策行動計画の委員として、皆様方には、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、この子育て支援始め皆様方には、市政の各方面においてご協力いただき、それぞれの立場においてご支援いただいていることに対しまして、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

特に、先般の10月10日、今年は清須越し四百年ということで、清須返し時代絵巻行列を実施したところがございます。少し心配された天気でありましたので、2時間遅れということで、開催させていただきました。当日は、事務局の関係機関等の発表によりますと、直接時代行列に参加していただいた方が約2,700人、そして、また美濃路とか

清洲城下へ集まっていた方が13万人、たくさんの方が参加や見ていただき、清須の歴史に触れていただいたということで、大変皆様方にご協力いただき感謝しているところです。こうしたことで、清須の歴史を内外にアピールしていこうということを考えております。また、もう一つは最近、希薄化が進む中で、人と人の結びつきとか、親子の関係や或いは地域との関係などの絆が、こうした行事を通じて絆が生まれてくることを願っているところであります。

また、11月には新川で「清須・川フェスティバル」があります。新川は、開削された川としては日本一長い川で、東海豪雨も経験したこの川で、皆様方に船に乗っていただき、そして川から街を見つめていただくというものです。今、生物多様性条約の会議も行われているところですので、自然は人間がいなくても生きていけるわけですが、人間は自然がなければ生きていけない事など、こんな事を皆様方で考えていっていただき、是非、この川くだりに参加していただきたいと考えております。

さて、この次世代育成支援行動計画でございますが、昨年、皆様方に色々ご協力いただき計画が策定でき、ありがとうございました。それに基づいて、逐一進めているところであります。懸案の廻間保育園であります。これも老朽化、定員増などをどうするかということでしたので、先般9月の議会において、工事を行うということの議決をいただいて、今進めております。完成は、平成24年度の4月を目指して全面改修を行っているところです。今日は、そうした事も含めまして事務局よりご報告させていただくと同時に、今後の保育園の取り組みについて、皆様方からご意見やご指摘をいただきたいと、そしてまた清須市の子育て支援の充実に努めていきたいと思っております。どうぞ、一つよろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

事務局

ありがとうございました。次に、委嘱状伝達について、今回、学校、幼稚園、保育園、児童館関係の代表の方々が代わられたことで、新たに5名の方を委員にお願いさせていただいております。新たに委員になられた方々に、本来、市長からお渡しするところでございますが、時間の関係もありますので、自席に委嘱状を置かさせていただき、委嘱状の伝達に代えさせていただきます。よろしくお願ひします。

委員の方々の紹介につきましては、お手元の名簿にて紹介に代えさせていただきます。なお、職員等についても名簿に記載させていただいておりますので、ご参照ください。よろしくお願ひします。

<p>建 部 委 員 長 事 務 局</p>	<p>それでは、ここからは着席して進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>次第5の清須市次世代育成支援対策行動計画策定委員会設置要綱について、ご説明いたします。資料2をご覧ください。 (資料2に基づき説明)</p> <p>次に、次第6の副委員長の指名について、ですが、副委員長でありました保育園連絡協議会長が代わられましたので、副委員長について、設置要綱第5条により、建部委員長から指名をお願いします。</p> <p>昨年度、保育園連絡協議会の会長に副委員長お願いしておりましたので、本日は欠席されていらっしゃると思いますが、慣例により副委員長に保育園連絡協議会の西村園子様を指名いたします。</p>
<p>建 部 委 員 長 事 務 局</p>	<p>ありがとうございます。副委員長の西村様には、事務局よりご説明させていただきます。</p> <p>ここで建部委員長より、一言ごあいさつをいただきたいと思います。</p> <p>昨年度に引き続き委員長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。</p>
<p>建 部 委 員 長 事 務 局</p>	<p>議事に入る前に、お手元の資料について、確認させていただきます。</p> <p>まずは、本日の会議次第、資料1が委員名簿、資料2が設置要綱、資料3が平成22年度主な取り組み状況、資料4が幼稚園保育所の整備の考え方、その他、廻間保育園新築工事の概要及び鳥瞰図、県内の認定こども園一覧表と、次世代育成計画の概要版でございます。</p> <p>それでは、議事に入りますが、議事進行につきましては、設置要綱の規定により委員長が議長となることとなっておりますので、議事進行につきましては、建部委員長に議長をお願いします。</p>
<p>建 部 委 員 長 事 務 局</p>	<p>それでは、規定に基づき議事の進行を務めさせていただきますが、皆様方のご協力をお願いします。なお、議事録署名委員に小川委員、丹羽委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、議事に入ります。なお、ご質問、ご意見につきましては、議事ごとにお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。最初に、平成22年度主な取り組み状況について、を議題とします。事務局、説明をお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>この委員会では、毎年、次世代育成支援行動計画に基づく事業の実施状況の進捗管理についてご意見をいただき、今後の事業展開の参考にさせていただいております。それでは、資料3をご覧ください。 (資料3に基づき説明)</p>

建 部 委 員 長 内田委員	ただいま説明のありました件について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
事 務 局	たんぼぼ園は、今、現在、何名の子が通っていますか。そして、西枇杷島地区にあります。清洲地区、新川地区、春日地区からも入っているのでしょうか。
加藤市長	まず、人数でございますが、平成 22 年 3 月 31 日現在ですが、48 名の方が利用していただいております。また、地区につきましては、各地区からも通所していただいている状況で、西枇杷島地区だけということではありません。
日 下 部 委 員 谷 委 員	資料 3 の 5 (3) の「子ども手当の支給」ですが、「平成 22 年度から一人につき 1 万 3 千円を支給します。」となっています。これは、今年度、支給しておりますが、これから予算のこともありますが、一つには昨年度、政権交代して 2 万 6 千円が 1 万 3 千円となったものです。これは、皆様方にも理解していただきたいのですが、1 万 3 千円の中の 4 分の 1 が市の財源がつけ込まれているということです。これは、国の施策で、国が一方的にやったということですが、それについては、財源を全額国が持たずにやっているもので、平成 22 年度はこういうことでやってきたわけです。昨日、東海 4 県の市長会がありまして、その中でも市長会として国に対して申し上げていくということで、全額国で持たない場合は、もしかすると市として辞退するという事も考えますよということ、こういう決議でありました。当然、去年やってそして来年度、無くすということにはならんとは思いますが、要は東海 4 県の市として、一方的に押し付けの制度であるという、やるなら全部国で持ちなさい。という決議をしたという、こういう実態があることだけご承知おきいただきたいと思います。
事 務 局	平成 22 年度から支給開始になっていると、これからずっと継続していくというように思います。民主党のマニフェストの 2 万 6 千円になるような風に思っている方もいるわけですが。
小川委員	たんぼぼ園の本年度から臨床心理士の配置ですが、年間 18 回となっておりますが、これは、具体的にどういう形でやられているのでしょうか。相談受付なののでしょうか。それとも療育に配慮したものなのでしょうか。
	年間 18 回ですが、月に 1 回の時と、2 回の時がございますが、日には決めて来ていただいております。お母さん方の相談業務だけでなく、お子さんの日常生活についても、指導・助言もいただいております。
	今までの計画に従って、新しい保育園、廻間保育園の改築というよ

事務局	<p>りも新設と同じ、素晴らしい園が出来上がるということで、定員が変わっていくということですが、一般の市民には定員 300 名、それから、乳児 100 名という噂が流れているようです。どこから流れているのか、それから現在の定員から 300 名となるとかなり多くなるように思います。今の定員から 300 名という、かなり利用が増えるということで、そこら辺の計画が分かりましたら教えていただけないでしょうか。</p>
事務局	<p>定員につきましては、現在 180 名になっています。今回の 300 名というのは、あくまでも収容能力でありまして、すぐに 300 名になるというものではありません。平成 24 年度の入所者から順に増やしていく方針であります。また、工期につきましては、平成 24 年 3 月 19 日までとなっていますが、平成 23 年中には完成し、引っ越しまで完了したいと考えております。</p>
小川委員	<p>ただ心配なのは、小規模が望ましいというのに、なぜ大規模なのかということですが、このあたりの利用効率というか、そうしたことも説明していきながら進めていくのが、大事だなと思います。</p>
建 部 委員 長	<p>ありがとうございます。その他、ご意見はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>他にご意見がないようですので、次の議事に入ります。幼稚園保育所の整備の考え方について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、資料 4 をご覧ください。 (資料 4 に基づき説明)</p>
建 部 委員 長	<p>ただいま説明のありました件について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。</p>
松永委員	<p>たんぼぼ園の臨床心理士のお話しがあったわけですが、保育サービスということで本校の臨床心理士が、保育園を廻りたいということと言われております。先ほどの年間 18 回というのは、少ないのかなと思うところです。我々、現場としては、専門家の先生のお話しをお聞きすることは、すごく助かります。たまたま本校に来ていただいている方が、春日の保育園も廻りたいという申し出がありました。多分、保育園の先生方も困って見える方もいるかと思いま。大変参考になるかと思いますので、そうした臨床心理士の活用を考えていくことで、利用日数を増やしていければと思います。</p>
内田委員	<p>最近、幼稚園や保育園で特別支援が必要なお子さんが増えているという現実があります。幼稚園・保育園とも、特別に支援員を配置しなければならないように随分なってきたりしております。そして、その子達がそのまま小学校に入ってきています。そして、小学校の方もそのまま</p>

特別支援をしなければならないよう状態が、ここ 3,4 年ぐらいで非常に顕著になってきています。ですから、そういう子の関わりというのが、これから教育の大きな課題になってくるようなことを思います。こういう子の課題を小さいうちから適切に対応していかないと、学校での対応が困難な状況になってしまいます。いわゆる学校崩壊が次々と起こってくる可能性がございますので、そういう点を考えながら、こういう幼児教育を進めなければならないと思います。

それで、たんぽぽ園ですが、先ほど今 48 名ということでしたが、もっとこれを増やすことができるのだろうか、というような事を考えたりしております。或いは保育園で、支援員が付いているように思われますが、どういう基準になっているのでしょうか。これが小学校に入る時にですね、小学校も保育園のように一人に対し、支援員は一人付けて欲しいと、こういう要望が親御さんから非常に強いわけですが、学校教育はそういうわけにはならないので、そうした事がお母さ方にご理解いただくのが非常に難しい状況です。今、私どもは悩んでいるということで、是非、その点も含めながら幼児教育を考えていかなければならないと思います。

但し、そういうことに対応していきますと、財政といたしましては人件費が増えます。それだけで大きな負担となります。ここら辺が、頭を悩ませる状況で、こんな事を思っています。

原田委員

近年、特別な支援が必要なお子さんが増えたという取り方ですが、昔もいたずらっ子や多動性の子はたくさんいたと思います。それは、脳の検査をすることは無かったので、普通教室の中で、みんなで取り込んで見守ったかと思えます。それに、検査をすることで、親が知るということは、とても大事なことで、私たち時々検査をされてみてはどうですか、とか言いますが、そうすると、それからの接し方が違ってきたりすると思えます。ただ施設を分けるとか、そこだけを増やすというのは如何なものかなあと思えます。私は特別増えているとは思わないので、分けなくて出来る方法はないのだろうかと思えます。

内田委員

言われることはよく分かります。実際に、以前より増えているのが第 1 点です。次に第 2 点目は、親がお子さんに対する姿勢が大分変わってきています。特別支援の責任を学校や幼稚園に全面的に任せるということです。その子に教師が関わってしまうと、あとの子は見られない状況になったりすることもあります。それと、多動性というのは昔から確かにありました。今は数が増えているように思われます。しかも、もっと重い症状の子もたくさんいる状況であります。例えば、

中田委員	<p>高機能自閉症の子もいます。高機能自閉症というのは、単なる自閉症でなくて、非常に頭は良いんです。頭は良いんですが、気持ちが何かの拍子でうまくいかなくなる場合があります。時には、隣にいる子を突いたり、階段で先生を押ししたりということがあったりして、心配になることがあります。特別にニーズが必要な子を支援学級でなく普通学級で見ると、その子だけに関わっていくわけにはいかない状況になります。すべての児童が健やかに成長することが、教師の願いですから、教育の現場としては、そうした取り組みをどうしたら良いのかという悩みを持っているという実態であります。</p>
加藤市長	<p>今のことですが、ですから子ども手当の1万3千円、これを何とか清須市としては、特にこういう教室に指導員を配置するとか、そういう財源に充てて欲しいと、すごく思っています。私も分けるというのは、あまりいい事だとは思わないのですが、家庭の事情もあるでしょうし、一人ひとり話して見ると、非常に良い子です。子どもは原石ですから光る要素を一杯持っているので、芽を摘むことを私たちはしてはいけない、芽を伸ばすようにしていかなければならないと、すごく思います。是非、この1万3千円、いつも話題に上ることなので、少しでも役に立つような使い方をしていただきたいと思います。本当に子ども達は、社会の宝だと思いますので、私たちの責任として、色々な機会を通して、考えていかなければならないと思います。</p>
事務局	<p>一方では、お金と人があれば何でも解決していくということではないということです。子ども達は、みんな育てていくことが大事な事だと思います。それで、1万3千円ですが、これは抗議を出しました。国が勝手にやって、4分の1を市が負担していくことになれば、平成23年度に向かっても同じ事をやってくると思います。最終的にはやらなければならないと思っています。もう一つは、医療費の無償化ですが、中学校卒業まで今年延ばしたところですが、それも市の財源で、将来の見通しを立てて、やっていたところへ子ども手当の財源の4分の1を出すことになったので、本当に市が進めている医療費の無料化が出来るのかということも心配しています。身近な問題がたくさんあるわけで、国は財源を委譲して、そして市がそこにあった施策をやれと、要するにお金だけ渡してくれればと思います。子ども医療費の無料化も始めましたので、そういうことを含めて国に要望しております。</p> <p>先ほどから、療育に関しましても色々と貴重なご意見をいただいているところですが、療育に関しましては、本日配布の次世代育成支援対策行動計画の概要版の中ほどに療育支援の充実を今回の計画の重点</p>

	<p>的な取り組みとして挙げさせていただいております。平成 20 年度に療育研究会を設置して、関係者が連携し検討しております。それから障害児と健常児の保育につきましては、保育長からご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
保 育 長	<p>各園で健常児と一緒に統合保育の中で、障害児を見させていただいておりますが、保育士一人が、その子一人に関わるということではなく、健常児の中にうまく溶け込めるようにして保育しており、一対一で保育をしているものではないことをお伝えさせていただきます。</p>
事 務 局	<p>その他、色々ご意見もあるかと思いますが、本日、ご提案させていただいております基本方針について、ご意見がありましたらお願いします。</p>
小川委員	<p>私も気になっていたことですが、基本方針の 1 から 4 までで、前回この会議においても、この部分が平成 22 年から平成 26 年までに実施するという内容だったと思いますが、やはり幼稚園保育所の基本方針とした場合、検討するという言葉で前回も多いのではないかと感じたわけです。具体的には認定こども園も民間からの申し出があった時に検討するということなので、仕方がないのでしょうか、その時の心構えとして、委員会としてどのように関わっていくことになるのか、分かっていたらお答えいただけないでしょうか。</p>
事 務 局	<p>まず、平成 26 年度までということでの後期行動計画を立てているところですが、保育所等の計画に当たっては、当然、幼稚園も含めて長期的な視野に立って、実施していく必要があるかと考えております。それで、限られた財源の中で、効率的かつ効果的な保育所運営について取り組んでいく必要があるかと思っております。そして、認定こども園については、民間から申し出があった場合、民間の力を活用していくため、お話しがあった時点で、この委員会にお諮りしたいと考えております。(市長、他の公務により一旦退席。)</p>
建 部 委 員 長	<p>それでは、私も少し聞きたかったことですが、廻間保育園はあれだけの大きさにするという事は、統廃合も見据えた上での整備なのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>廻間保育園は、先ほど申し上げましたように、収容能力としては 300 名となります。廻間保育園が完成後は、基本方針にもありますように大規模改築・建替等が完了している施設への入所を促進するとしています。耐震化が必要な施設が清須市内には 4 園あります。それは、清洲地区の新清洲保育園、一場保育園、朝日保育園と春日地区にあります夢の森保育園の 4 園が耐震基準を満たしていない建物であります。</p>

	<p>そうした建物については、順次整備していく必要があると考えておりますが、そうした建物については、統廃合や民営化を視野に入れながらガイドラインを作成し、ガイドラインが出来次第、委員会にお諮りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
日下部 委員	<p>家の近所の新清洲保育園が統廃合になるのではないかと噂があります。廻間保育園が完成した後は、順次入所者を移行していかれるかと思いますが、本日の資料では認定こども園のお話があればそうした事も考えられるのでしょうか。もし、そうであれば次のページにもあるように認定こども園の先進地を検討する機会として、研修をしたいと思います。</p>
事務局	<p>廻間保育園の新たな入所は平成24年度からになります。従いまして、廻間保育園の近くにあります新清洲保育園の入所については、廻間保育園への入所の促進を図ることになります。そうした中で、新清洲保育園の入所者数が減少し、今後も増加の見込みがなければ統廃合を検討することになります。また、認定こども園につきましては、民間からの申し出があれば検討することになりますので、先進地を視察することも考えていきたいと思います。</p>
原田委員	<p>たんぼぼ園とか色んなところに行かせていただいておりますが、どの子も本当にいい子で、その子と向き合っ接することの大切さを感じています。周りの大人がそうした子を受け入れることが大事だと思ってしています。親を育てることが必要で、地域の人たちや私たちが優しい気持ちで手を差し伸べるような体制にすれば、必ず良い子育てが出来るように思います。</p>
谷委員	<p>清須市内の小学校でさえ支援学級の取り組み方が違うような気がします。一人の先生が、障害を持った3人の子を見るのは大変だと思います。学校全体でカバーしていき、また学校間での連携を深めることによって、もう少し良い支援が出来ていくのではないかと思います。</p>
村瀬委員	<p>たんぼぼ園は私どもが住む西枇杷島地区にある訳ですが、一度か二度お邪魔して、お子さんを見て、お母さんからお子さんのことを聞くなどし、民生児童委員として活動しているわけですが、先ほど48人が通所しているとのことでしたが、その子ども達も週に3日の子や4日の子など、色んな子がいるわけで、みんなが毎日朝の10時から午後1時までいるというものではないことをお聞きしましたので、付け加えさせていただきます。</p>
建部 委員長	<p>ありがとうございます。現役にお母さんでいらっしゃいます、児童館代表の河合さんとか如何でしょうか。</p>

河合委員	<p>私は、今、上の子が2年生で、下の子が保育園の年少ですが、親が子ども叱れていないことが悪いと思います。親御さんを育てるといっか、そういう機会もあってはいいのではないかと考えています。学校の先生も生徒を叱りにくい立場といっか、非常に難しいと思います。でも、本当に悪いときは、きちんと叱ってもいいのではないかと考えています。(市長、席へ戻る。)</p>
内田委員	<p>今のお話を聞きまして、現実には中々難しいです。最近では、保護者には出来るだけ学校に来ていただいて、お子さんの様子を見ていただくようにしています。小学校では非常に心配なお子さんがある時、大抵は普通学級に入れることとなりますが、お母さんには「一度学校へ来て、普通学級の様子、或いは支援学級の様子を見て決めてください。」と申し上げています。先生方も学校だけで教育をやらうという風潮はございません。当然、お母さん方と協力しながら子どもを育てていくというのが、今の姿勢であるかと思っか。しかし、中々お母さん方のすべての皆さんに来ていただけないのが現実です。子育てネットワークの皆さんが言われることも良く分かりますが、現実が現実ということなのです。ただ、学校は子育てだけでなく勉強を教えるところで、新学習指導要領では、教科書が今までの1.5倍になってきます。それだけの事を教えていかなければならないというのが現実です。そうした中で、逆に子どもの頭に手を乗せるだけで、叩いたということになり、それが、段々エスカレートし、噂だけが一人歩きするようになってしまうのが、現実なのです。学校としては、これからもお母さん方と一緒にあって子どもを育てていかなければならないと思っかしておりますので、どうぞ、ご協力をお願いします。</p>
小川委員	<p>元教員としてひと言だけ、少子化になって学級数も減る、そうした時から学級崩壊が始まっているように思っか。なぜ、始まったかと言っか、一クラスに60人くらいいた時には、そんな事はなく、時代が違っかてきたかなあと思っかしています。言いたいことは、正しい考えを持った子を次世代で育てていく、幼児教育を願っかしております。そうした事を考えて今からやっかていかなないといっかけないのではないかと考えています。</p>
谷委員	<p>療育の充実の中で、児童デーサービスの検討となっかっていますが、具体的にどのようなお考えでしょうか。現在、清須市の児童デーサービスを利用されている方といっかのは、北名古屋市であつたり、津島市であつたりするわけですが、清須市でサービスを受けられるようになるのでしょうか。</p>

<p>事務局</p> <p>建部 委員長</p>	<p>児童デーサービスは、障害者の自立支援法に基づいています。基本的には、民間事業所がやっているところが多く、清須市としても民間事業者が参入していただきたいと考えています。たんぽぽ園でもそうですが、幼児から小学校と続けて支援していかなければならないので、事業者任せにするのではなく、市もどういう形で支援していくかを検討するために、重点的な事業の中に挙げさせていただいておりますが、今の段階で具体的なものをお示し出来るものではありませんので、よろしくをお願いします。</p> <p>他にご意見はございますか。他にご意見もないようですので、それでは、以上で、本日の議事は総て終了いたしました。</p> <p>皆様方のご協力によりまして、会議を円滑に進めることができましたことに、お礼申し上げます。長時間に渡りまして、ご協議ありがとうございました。今後ともよろしくをお願いします。</p> <p>これをもちまして、本日の次世代育成支援対策行動計画策定委員会を閉会いたします。皆様、ご苦労さまでした。</p> <p>(午前11時30分終了)</p>
<p>会議の結果</p>	<p>決議に付する議事なし</p>

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 年 月 日

委員 ㊟

平成 年 月 日

委員 ㊟